

令和5年度健康実態調査の結果について（概要）

※【 】で表記した部分は、同一の質問項目に関する昨年度の集計結果である。

1. 調査の目的

平成24年9月に「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」が施行され、「カネミ油症患者に関する施策の推進に関する基本的な指針」（厚生労働省・農林水産省告示）に基づき、カネミ油症患者の生活習慣、病状、治療内容等について把握し、カネミ油症に関する調査研究を更に推進することを目的とする。

2. 調査期間

令和5年4月～6月末

3. 調査対象及び回答者

各都道府県で把握している1,518人の認定患者（令和5年3月31日時点の調査対象見込者数、前年度1,529人）のうち、死亡や所在不明の方、非協力の意向を示された方等を除いた1,282人【1,304人】から回答を得た。

4. 調査項目

平成20年度に厚生労働省が実施した油症患者に係る健康実態調査の調査項目を元に、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）で、カネミ油症患者の意見を聞きつつ決定した生活習慣、健康状態や悩み、治療状況、これまでにかかったことのある病気・症状などの項目を調査した。

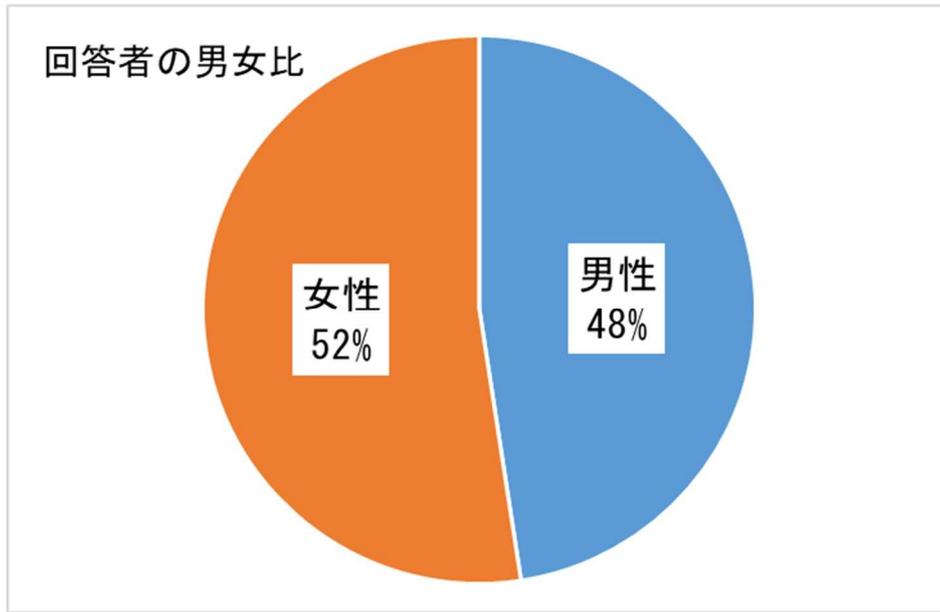
5. 調査結果の活用

調査結果については、アンケートに基づく調査の医学的・科学的解釈の限界に留意しつつ、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、過去の健康実態調査及び過去の検診結果等と併せてより詳細な解析を行い、翌年度以降の健康実態調査項目などカネミ油症に関する調査研究に活用される予定である。

6. 調査結果の概要

(1) 性別

- ・男性610人【618人】、女性672人【686人】、不詳0人【0人】

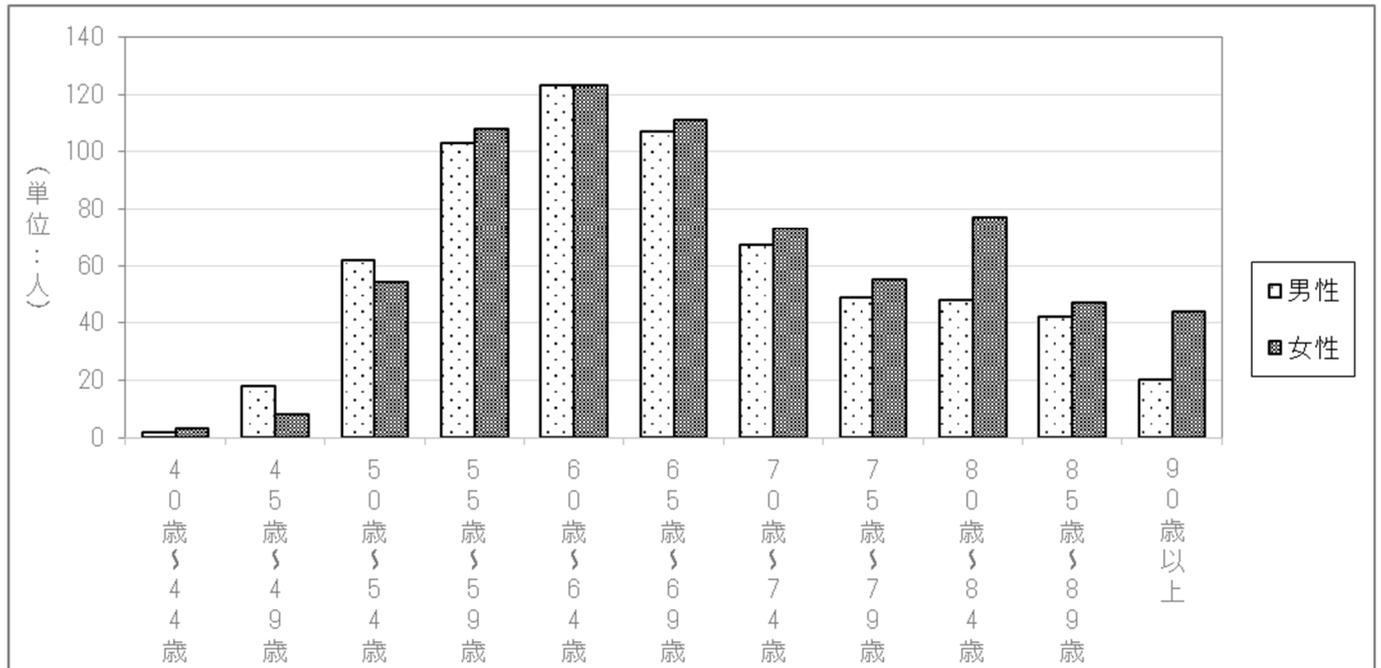


(2) 年齢

- ・平均年齢は68.9歳【68.5歳】であった。

男性67.9歳【67.4歳】、女性69.9歳【69.5歳】

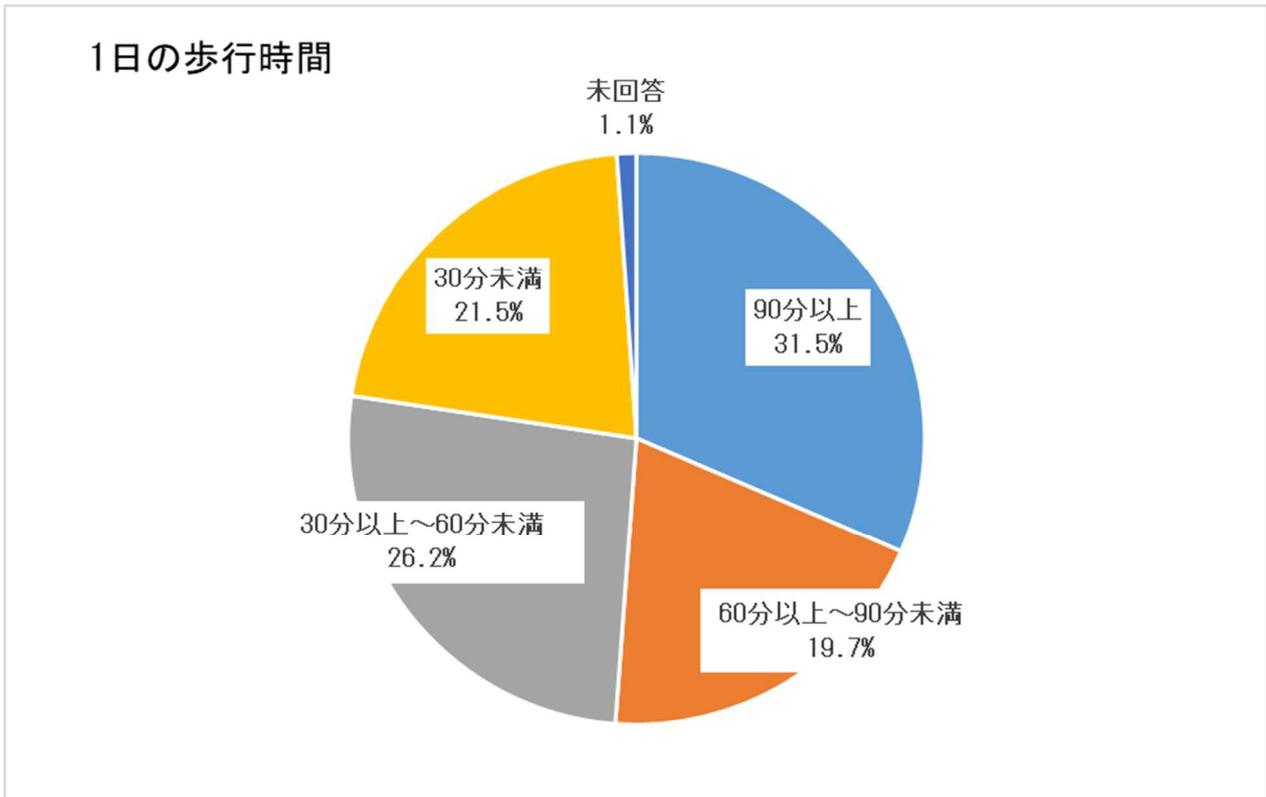
- ・男性は、「60～64歳」の者が19.7%【19.9%】と最も多く、次いで、「65～69歳」が18.7%【16.8%】、「55～59歳」が17.4%【17.3%】等の順であった。
- ・女性は、「60～64歳」の者が19.0%【18.4%】と最も多く、次いで、「65～69歳」が16.7%【15.7%】、「55～59歳」が14.0%【14.6%】等の順であった。



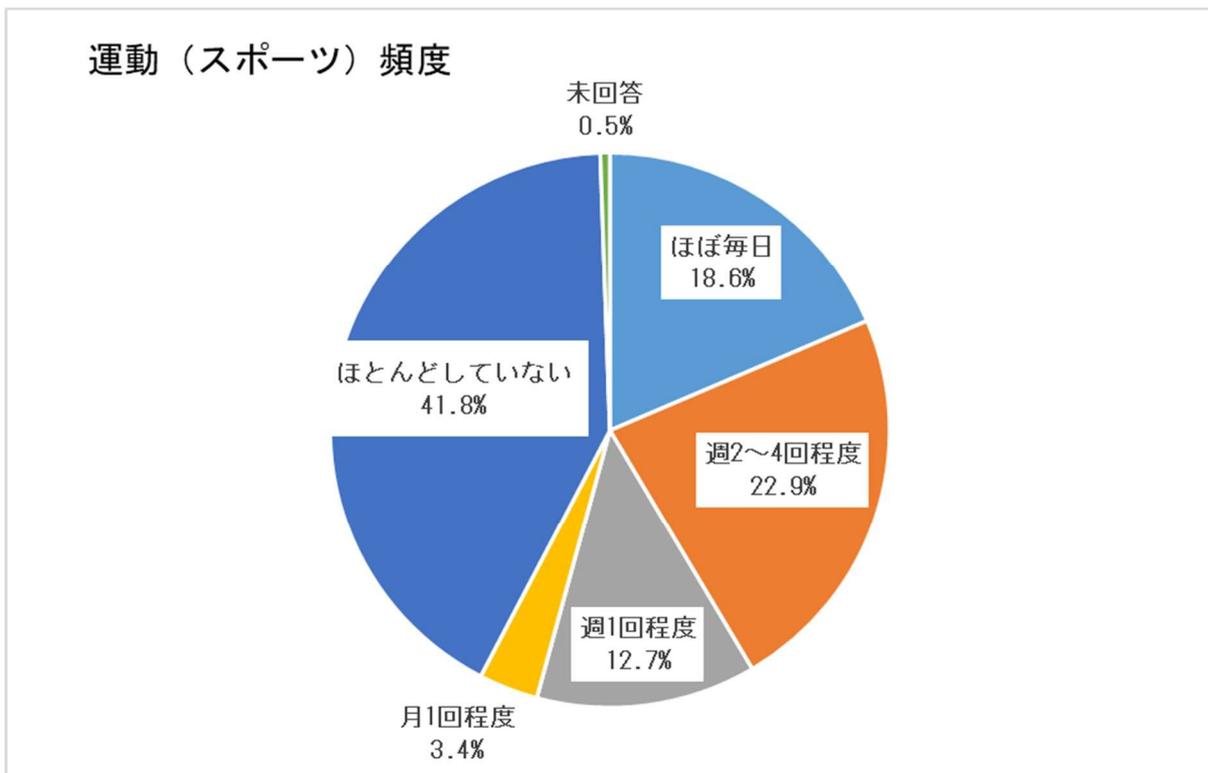
※39歳以下は0人であった。

(3) 生活習慣について

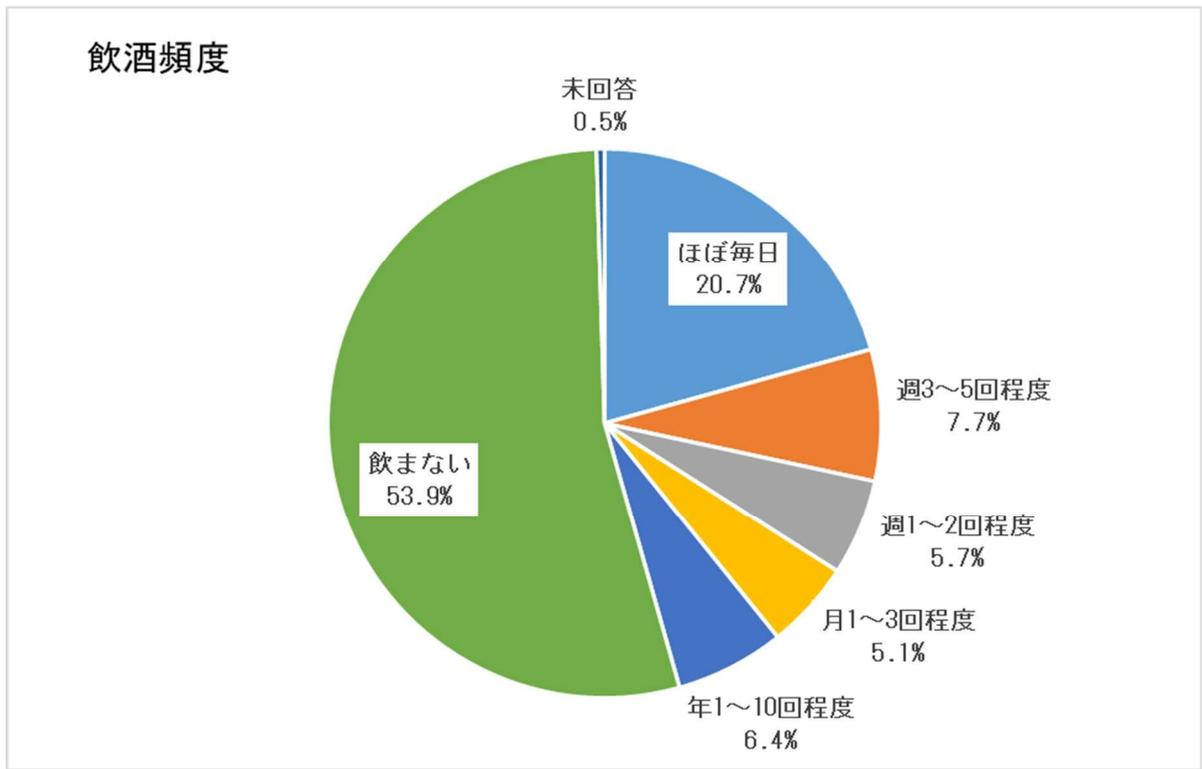
- ・ 1日の歩行時間についてみると、「90分以上」と回答した方が31.5%【29.7%】と最も多く、次いで、「30分以上～60分未満」26.2%【26.5%】、「30分未満」21.5%【23.5%】等の順であった。



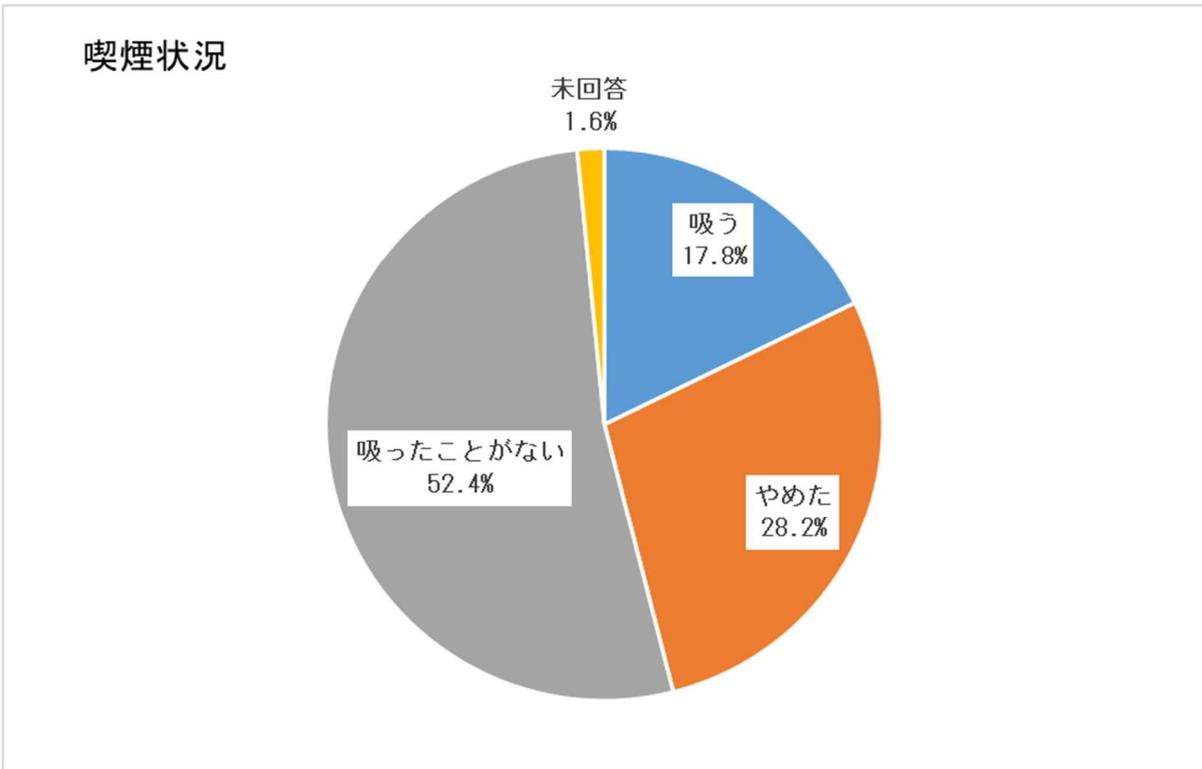
- ・ 運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した方が41.8%【44.1%】と最も多く、次いで、「週2～4回程度」が22.9%【21.3%】、「ほぼ毎日」が18.6%【16.9%】等の順であった。



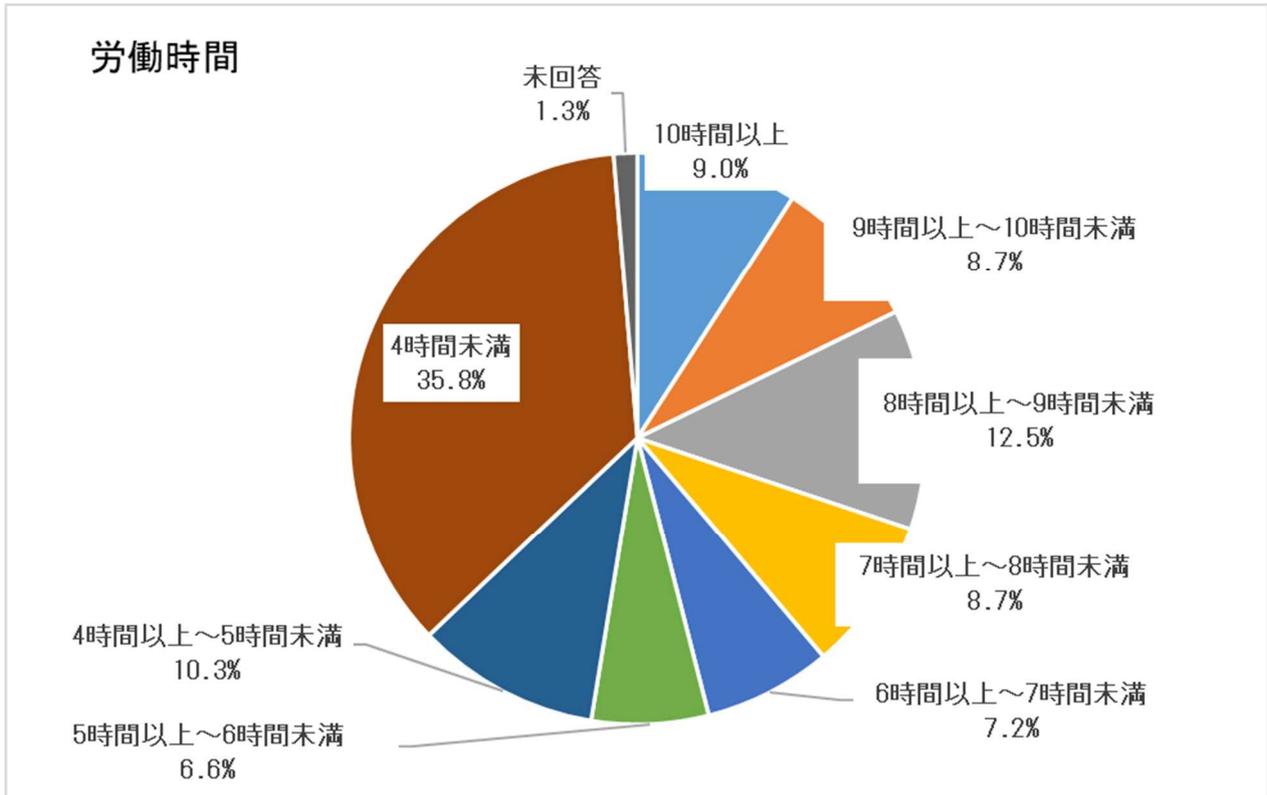
・飲酒頻度についてみると、「飲まない」と回答した方が53.9%【54.6%】と最も多かった。



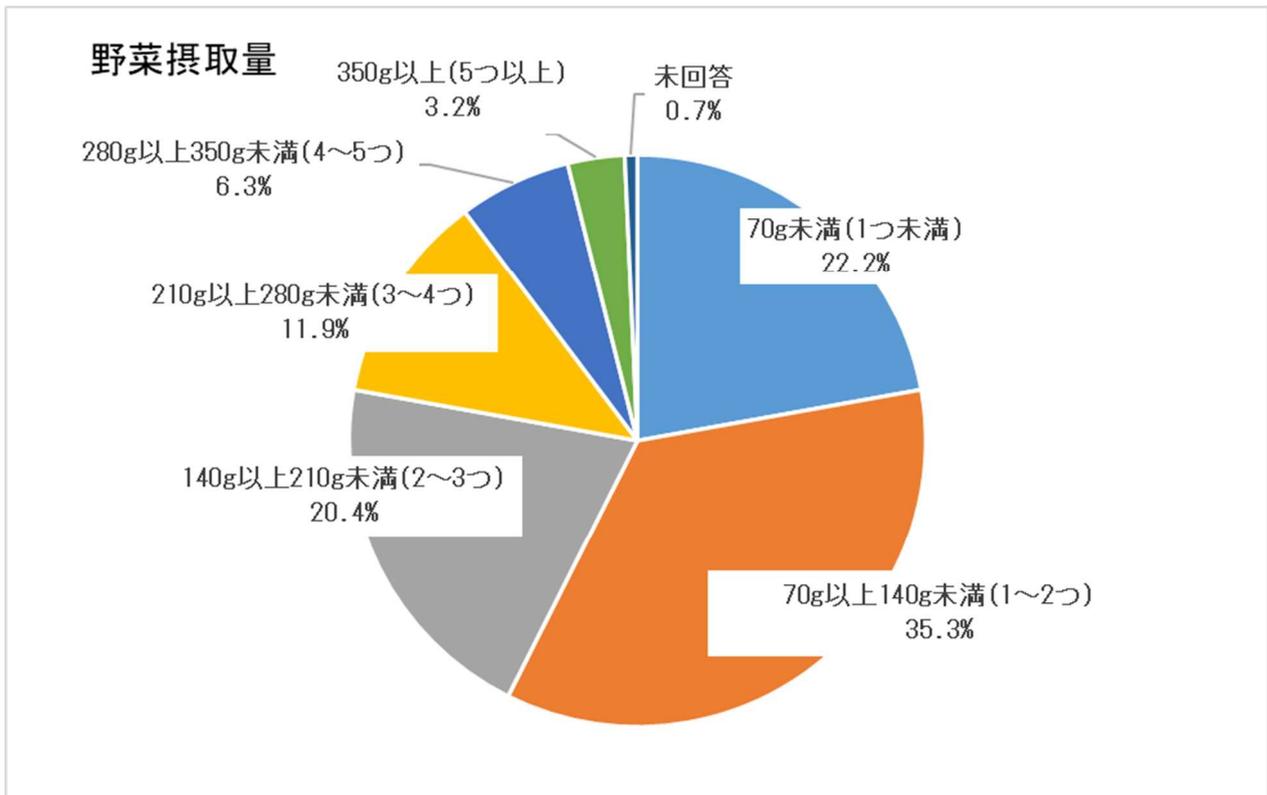
・喫煙状況についてみると、「吸ったことがない」と回答した方が52.4%【53.1%】と最も多かった。



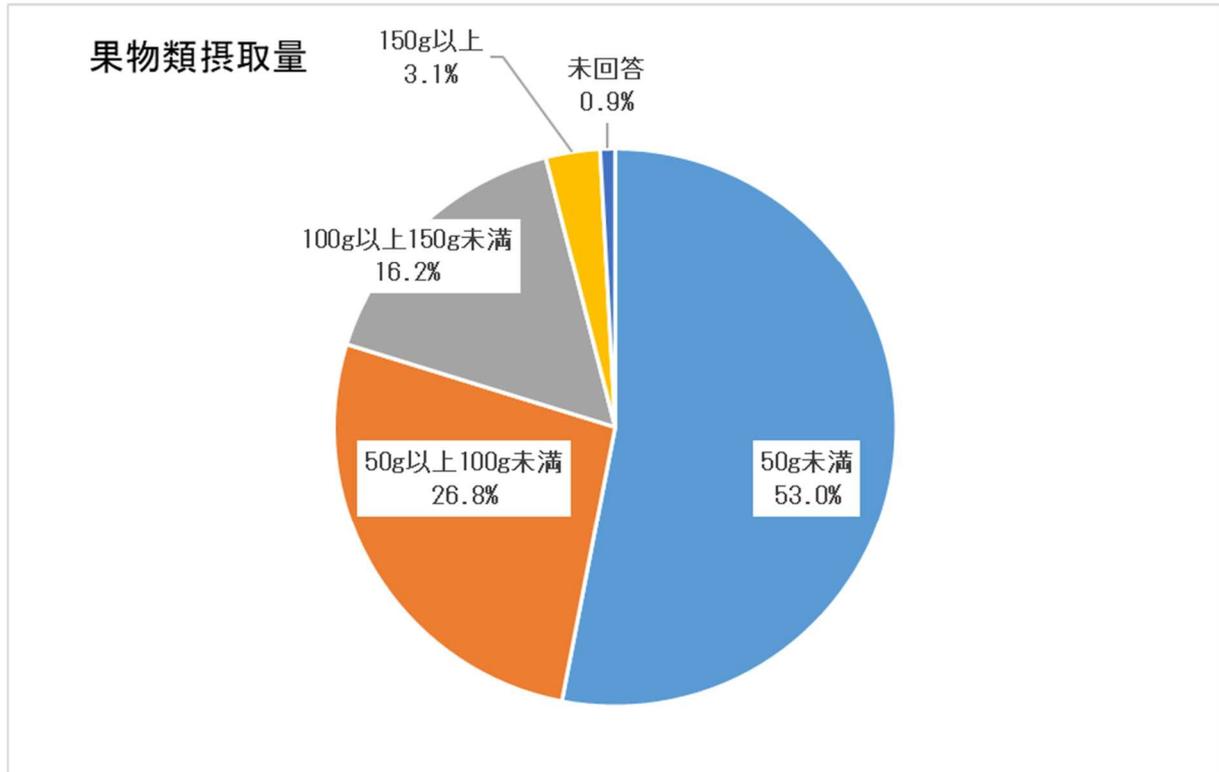
- ・労働時間についてみると、「4時間未満」と回答した方が35.8%【35.7%】と最も多く、次いで「8時間以上9時間未満」が12.5%【13.3%】、「4時間以上5時間未満」が10.3%【9.0%】等の順であった。



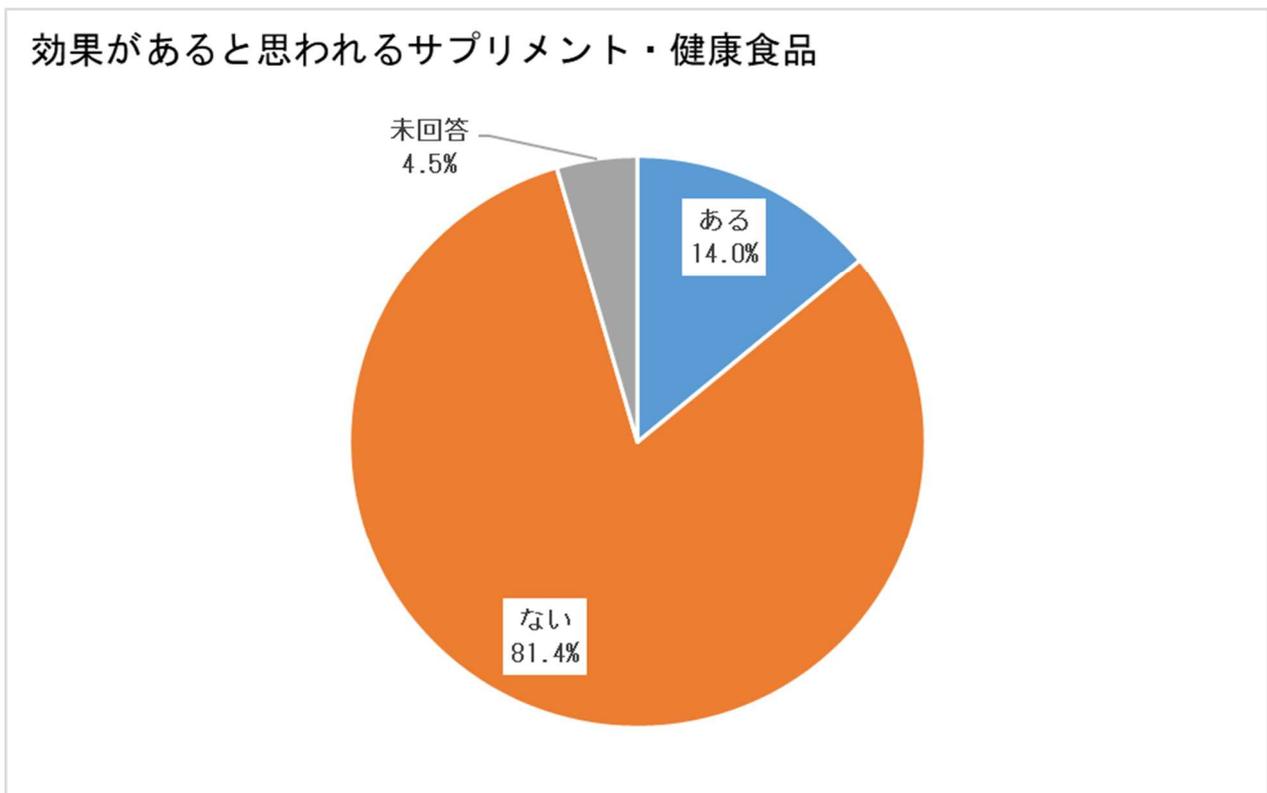
- ・野菜摂取量についてみると、「70g以上140g未満（1～2つ）」と回答した方が35.3%【32.5%】と最も多く、次いで「70g未満（1つ未満）」が22.2%【21.0%】、「140g以上210g未満（2～3つ）」が20.4%【21.3%】等の順であった。



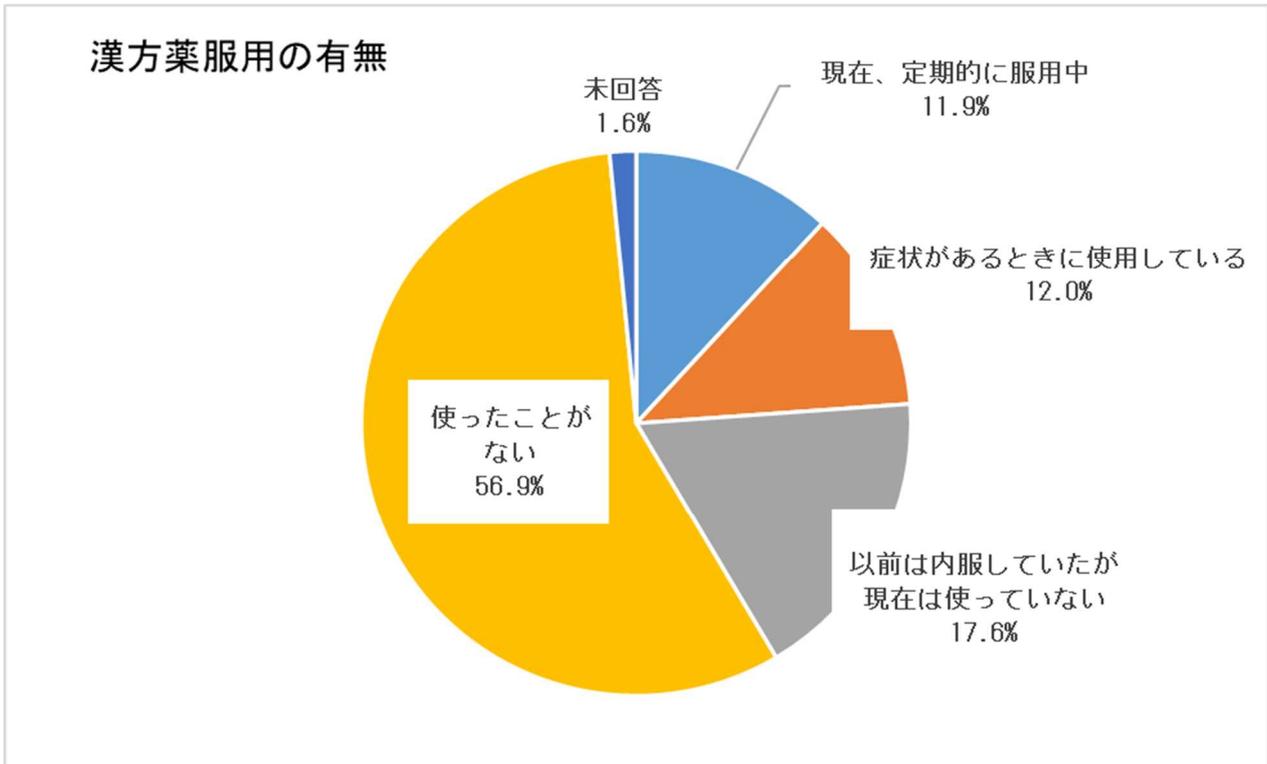
- ・果物類摂取量についてみると、「50g未満」と回答した方が53.0%【51.5%】と最も多く、次いで「50g以上100g未満」が26.8%【26.7%】、「100g以上150g未満」が16.2%【16.1%】等の順であった。



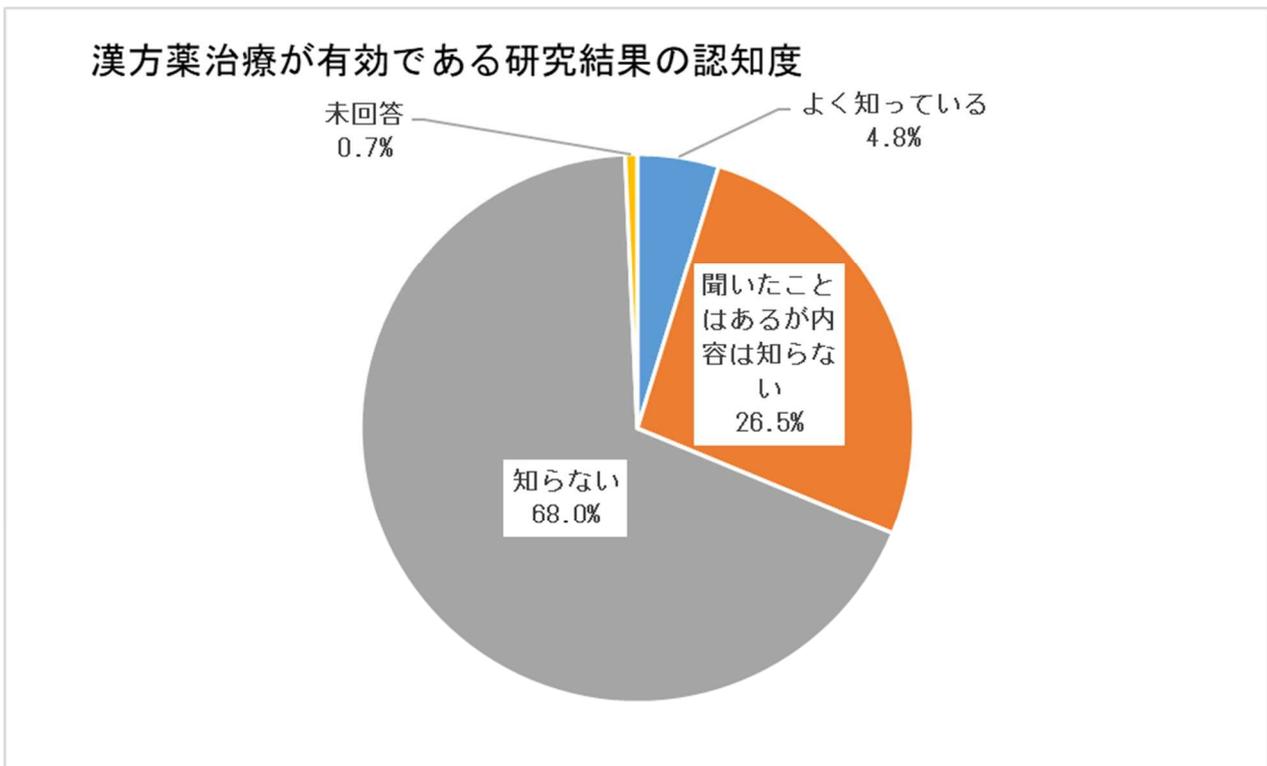
- ・効果があると思われるサプリメント・健康食品の有無についてみると、14.0%【16.3%】が「ある」と回答した。



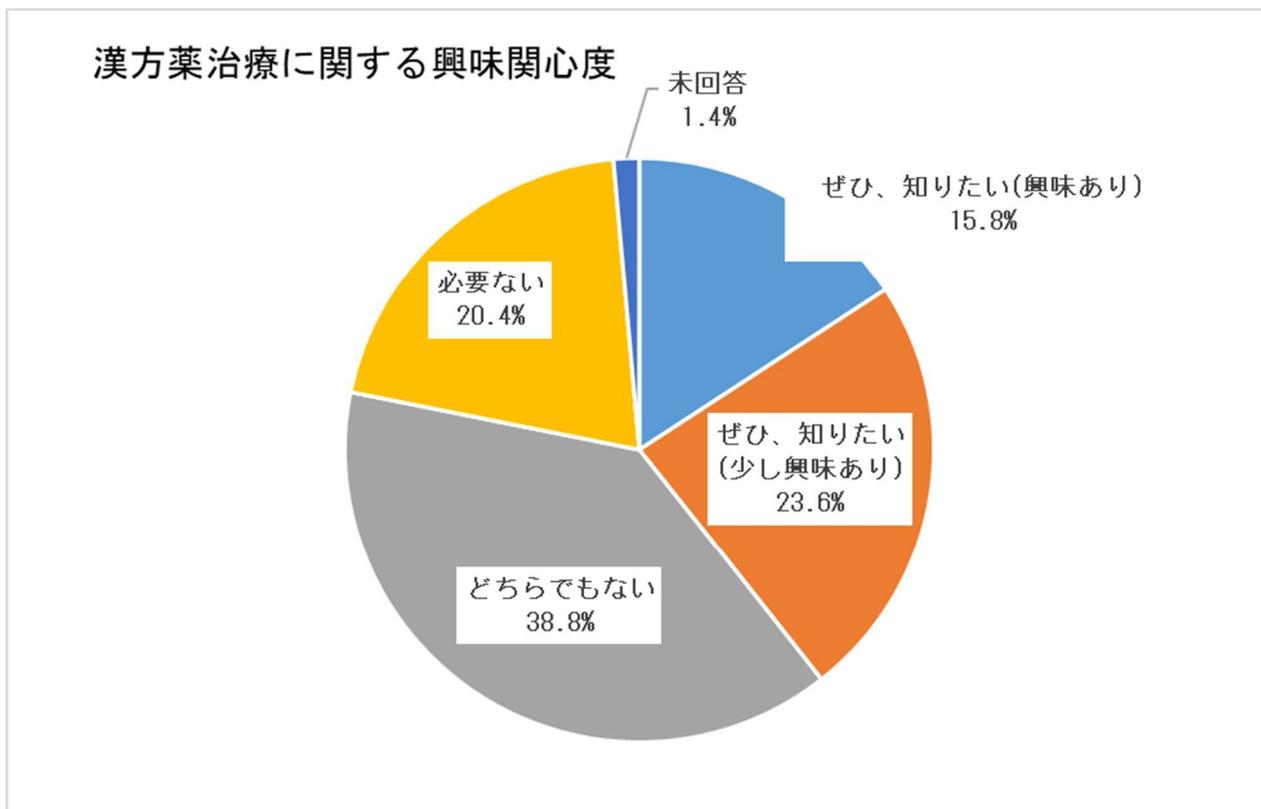
- 漢方薬の服用の有無についてみると、「使ったことがない」と回答した方が56.9%と最も多く、次いで「以前は内服していたが現在は使っていない」が17.6%、「症状があるときに使用している」が12.0%等の順であった。



- 漢方薬治療が有効であるという研究結果の認知度についてみると、4.8%が「よく知っている」と回答した。

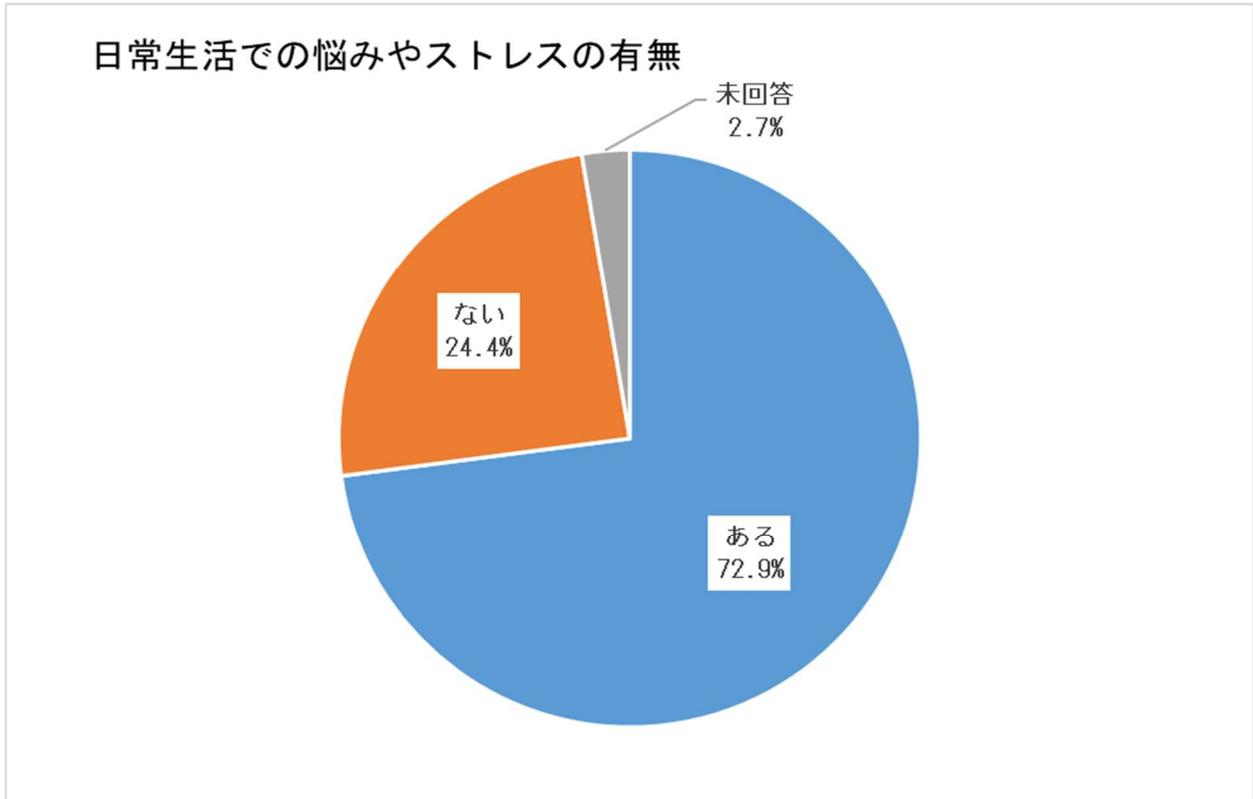


- 漢方薬治療に関する興味関心度についてみると、15.8%が「ぜひ、知りたい（興味あり）」と回答し、23.6%が「ぜひ、知りたい（少し興味あり）」と回答した。



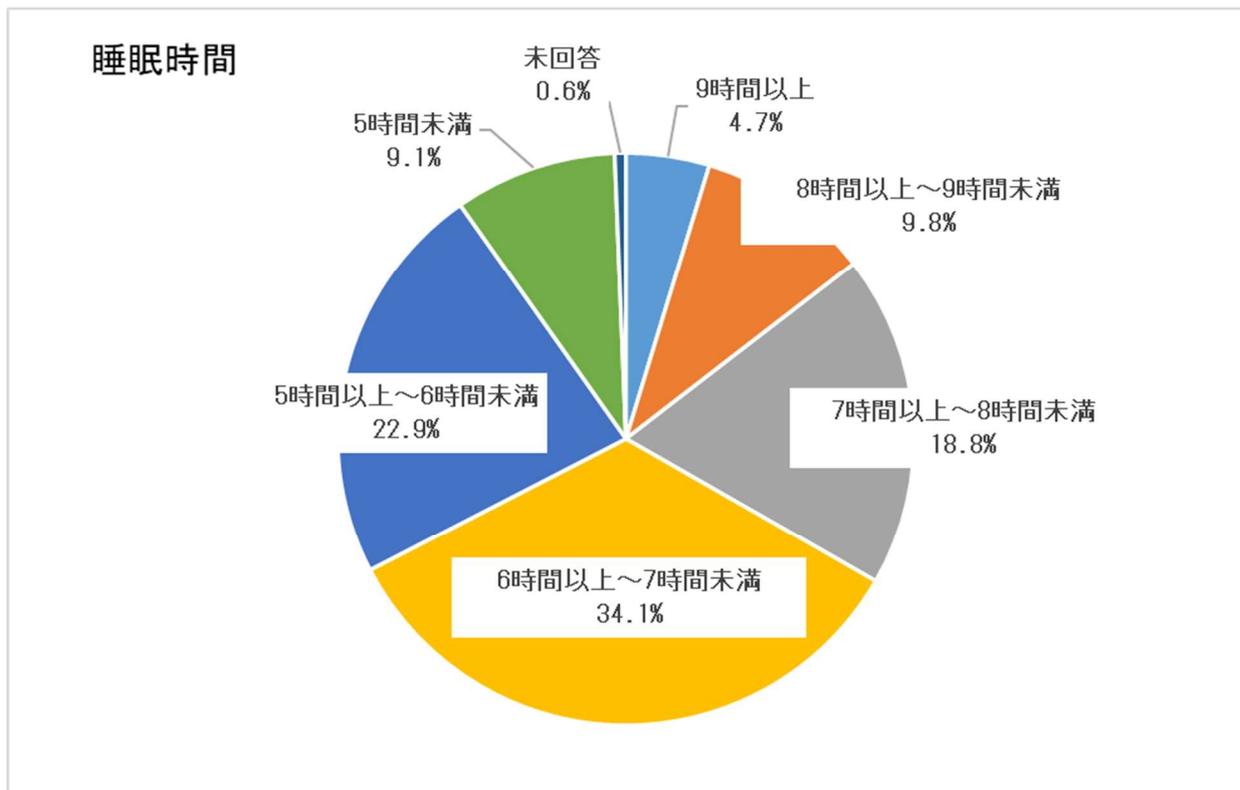
(4)健康・悩み・ストレスについて

- ・日常生活での悩みやストレスの有無について、「ある」と回答した方は72.9%【75.0%】であった。



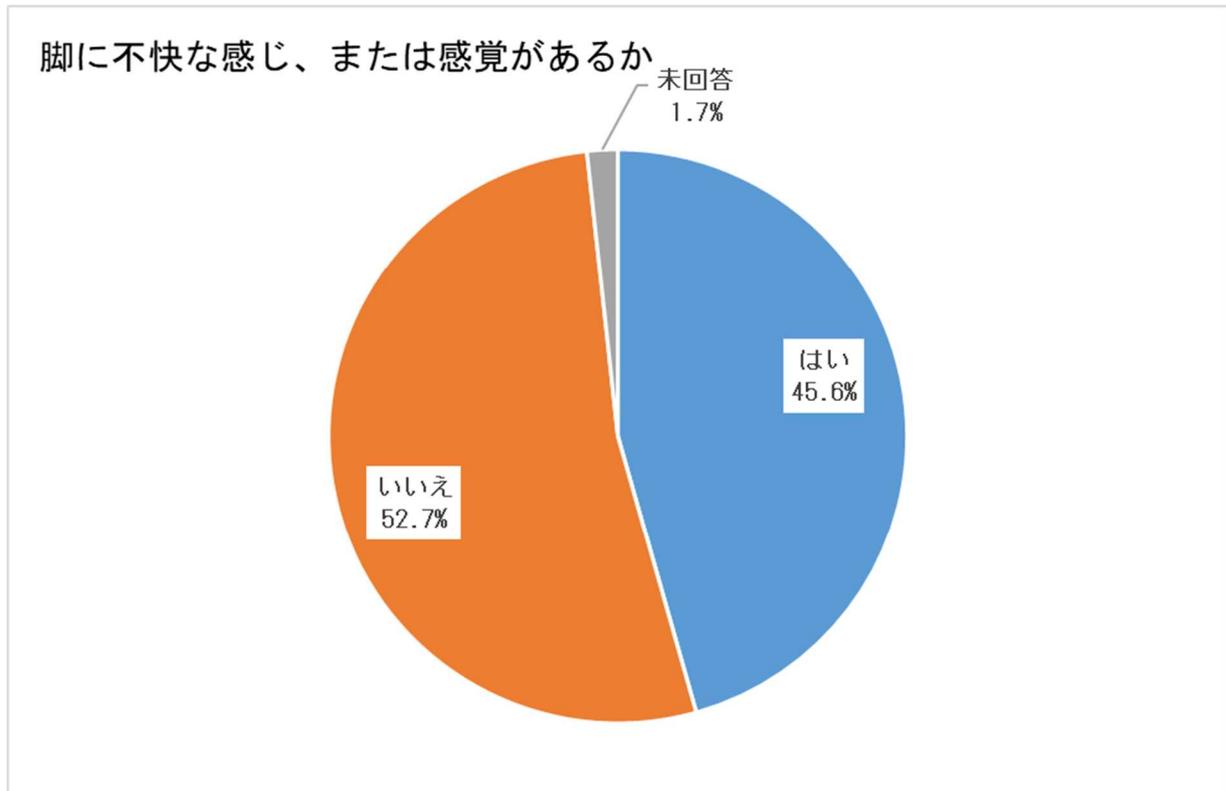
- ・日常生活での悩みやストレスがあると回答した935人【978人】を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因（1つ）を質問したところ、「自分の健康状態、病気や介護」と回答した方が359人(38.4%)【413人(42.2%)】と最も多かった。

- ・睡眠時間についてみると、「6時間以上7時間未満」と回答した方が34.1%【33.4%】と最も多く、次いで「5時間以上6時間未満」が22.9%【26.2%】、「7時間以上8時間未満」が18.8%【16.0%】等の順であった。

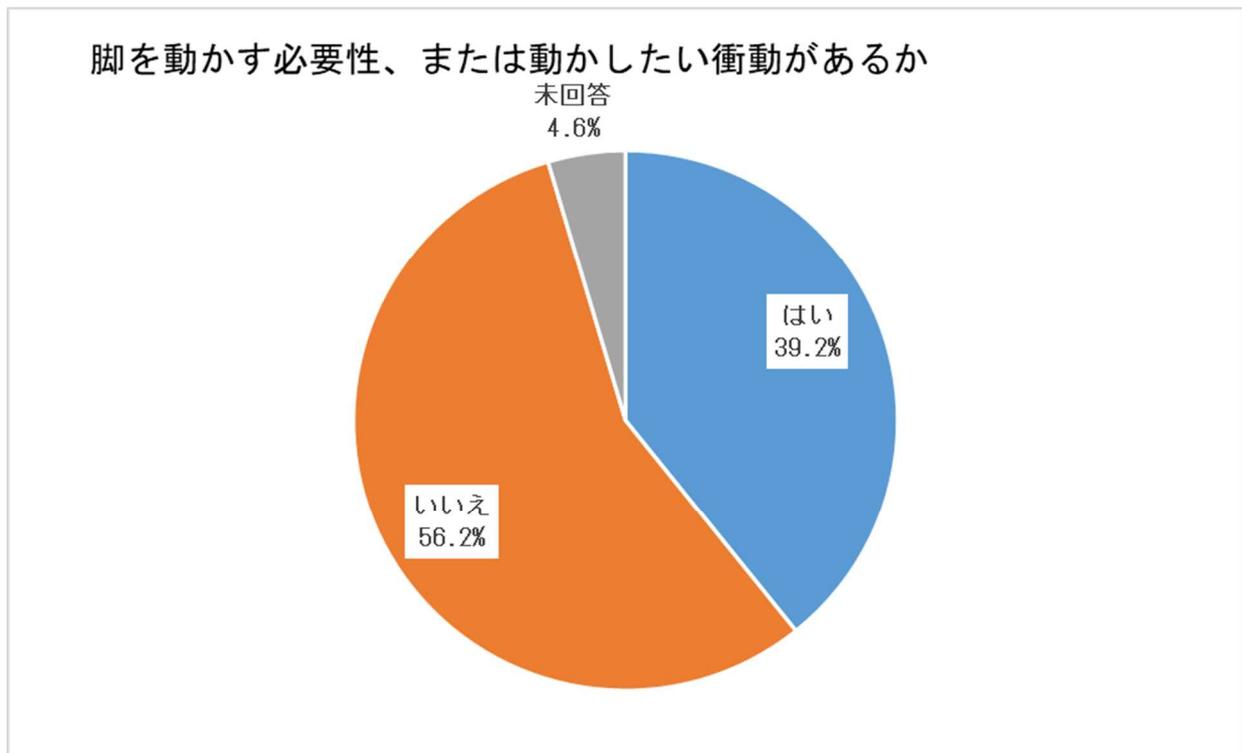


・睡眠時間のとれている度合いについてみると、「夜間、睡眠途中で目が覚めて困った。」と回答した方が45.7%【48.3%】と最も多く、次いで「日中、眠気を感じた。」が36.6%【38.3%】、「睡眠全体の質に満足できなかった。」が32.9%【34.2%】等の順であった。

・座っているとき、または横になっている間に脚に不快な感じ、または感覚があるかについてみると、「はい」と回答した方は45.6%【45.0%】であった。



・座っているとき、または横になっている間に脚を動かす必要性、または動かしたい衝動があるかについてみると、「はい」と回答した方は39.2%【38.3%】であった。



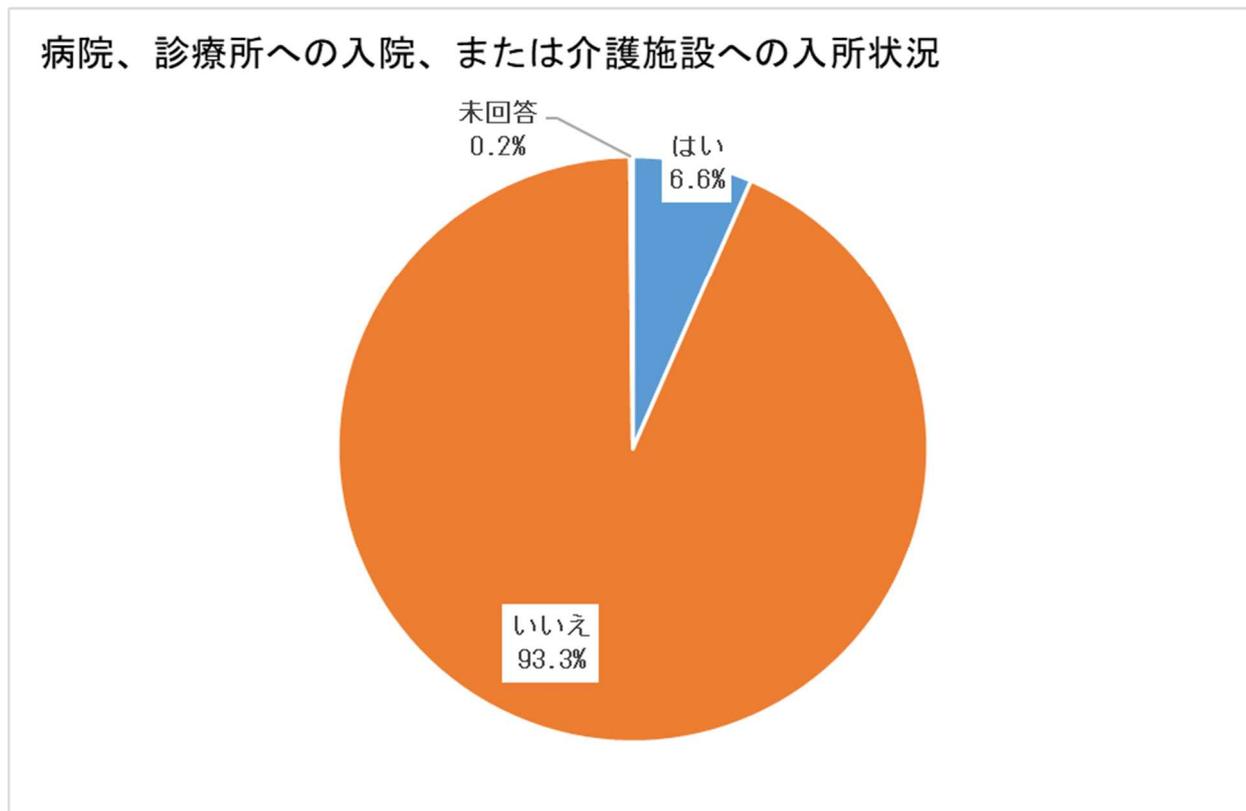
・座っているとき、または横になっている間に脚に不快な感じ、または感覚があるかについて「はい」、または座っているとき、または横になっている間に脚を動かす必要性、または動かしたい衝動があるかについて「はい」と回答した621人【630人】を対象に、休んでいるとき（座っているとき、または横になっているとき）と、体を動かしているときのどちらでこのように感じやすいかについて質問したところ、「休んでいるとき」と回答した方が296人（47.7%）【287人（45.6%）】と最も多かった。

・座っているとき、または横になっている間に脚に不快な感じ、または感覚があるかについて「はい」、または座っているとき、または横になっている間に脚を動かす必要性、または動かしたい衝動があるかについて「はい」と回答した人の、このような感じがするときに起き上がったり、動き回ったりすると、実際に動き続けているあいだは、その感じはいくらかでも軽くなるかについてみると「はい」が342人（55.1%）【358人（56.8%）】と最も多かった。

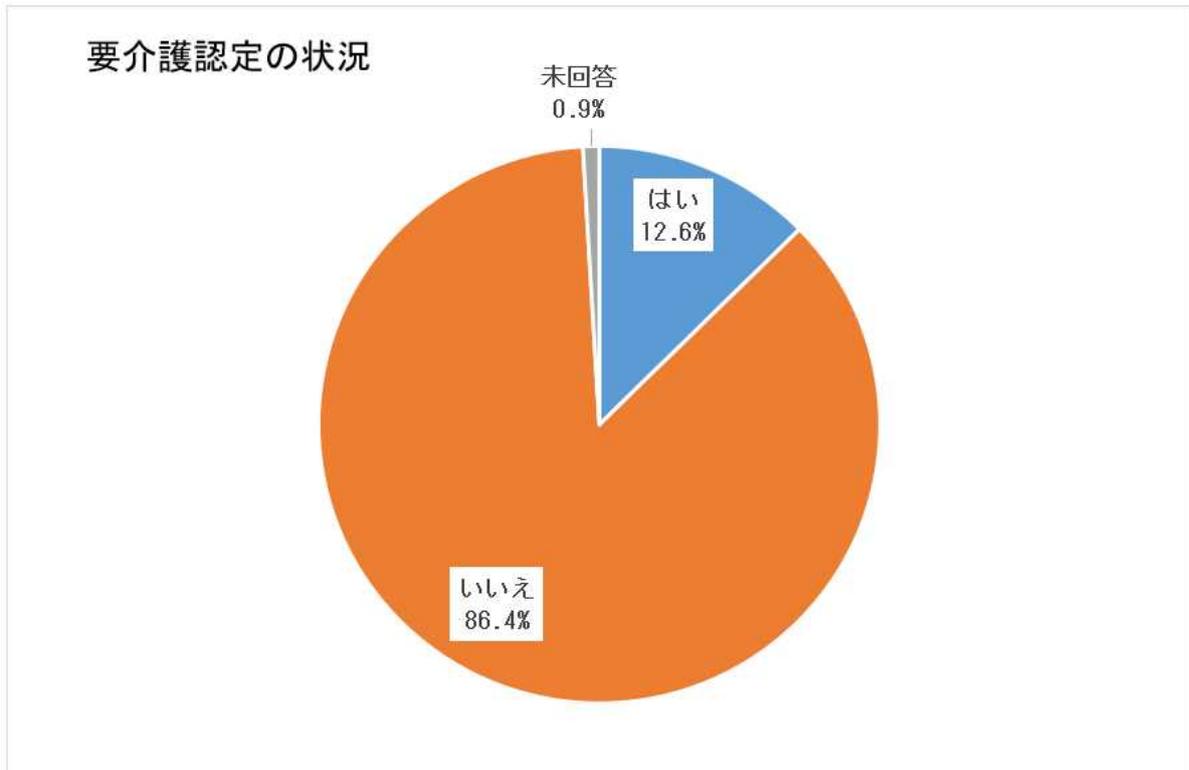
・座っているとき、または横になっている間に脚に不快な感じ、または感覚があるかについて「はい」、または座っているとき、または横になっている間に脚を動かす必要性、または動かしたい衝動があるかについて「はい」と回答した人の、脚のこの感じは1日のうちどの時間帯でもっとも起こりやすいかについては、「夜」が246人（39.6%）【230人（36.5%）】と最も多かった。

(5) 介護や日常生活動作の状況について

・病院や診療所への入院、介護施設への入所状況についてみると、6.6%【6.3%】の方が入院中もしくは入所中であった。



- ・要介護認定の状況についてみると、162人（12.6%）【164人（12.6%）】、男性55人（9.0%）【59人（9.5%）】、女性107人（15.9%）【105人（15.3%）】の方が要介護認定を受けていた。



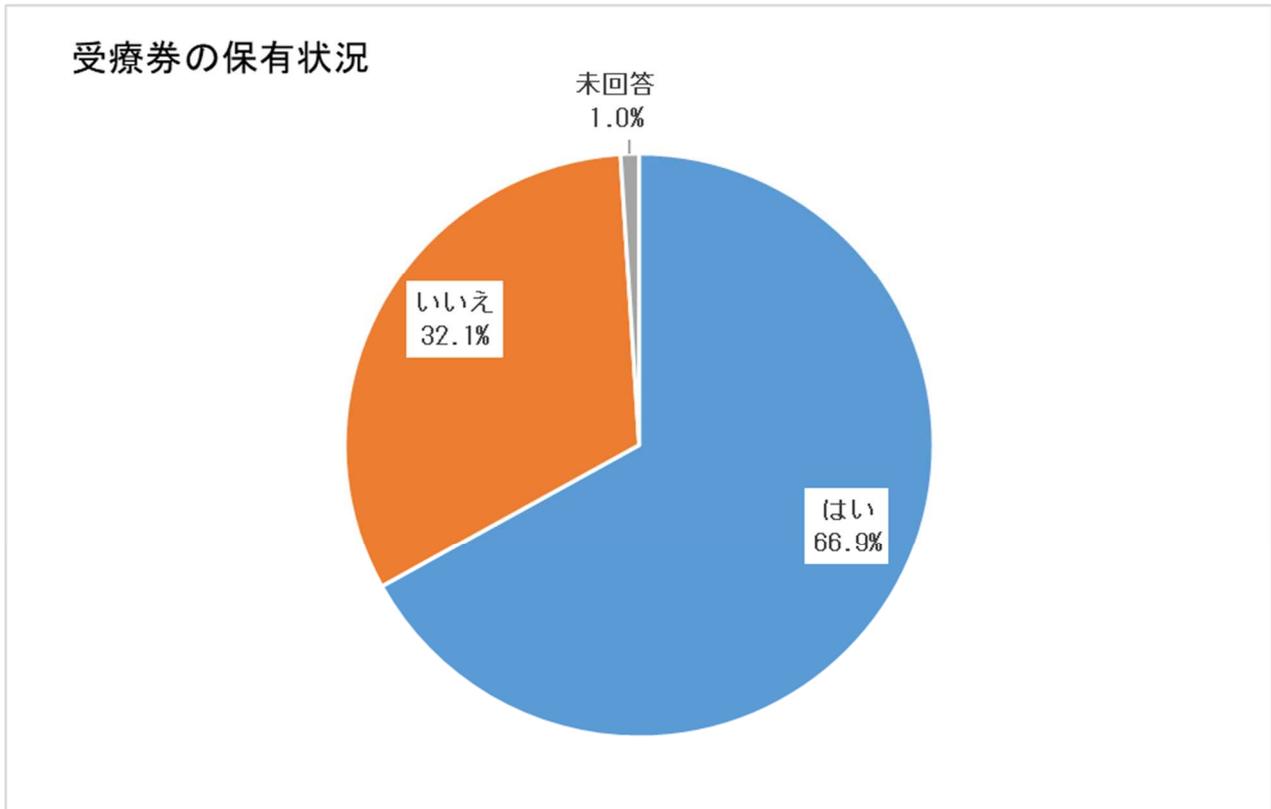
- ・また、要介護認定を受けている162人の方に現在利用している介護サービス（当てはまるものすべて）を質問したところ、「通所介護（デイサービス）」が27.8%【28.0%】と最も多く、次いで「ホームヘルパーの訪問介護・訪問看護」が18.5%【18.3%】等の順であった。

(6) 現在の治療状況について

- ・現在の受診頻度についてみると、「毎月1～3回程度」が46.9%【46.5%】と最も多く、次いで「数か月に1回程度」が27.5%【26.8%】等の順であった。
- ・新型コロナウイルスの影響により、普段の受診の頻度に変化（減少）があると回答した方は、138人（10.8%）【176人（13.5%）】で、男性60人（9.8%）【61人（9.9%）】、女性78人（11.6%）【115人（16.8%）】であった。
- ・また、新型コロナウイルスの影響により、普段の受診の頻度に変化（減少）があると回答した人を対象に、受診頻度に変化（減少）した理由を質問したところ、「病院で新型コロナウイルスに感染するかもしれないため」と回答した方が87人（63.0%）【119人（67.6%）】と最も多かった。
- ・医師から処方されている薬があると回答した方は、932人（72.7%）【952人（73.0%）】で、男性422人（69.2%）【440人（71.2%）】、女性510人（75.9%）【512人（74.6%）】であった。

(7) 油症患者受療券（受療券）の利用状況について

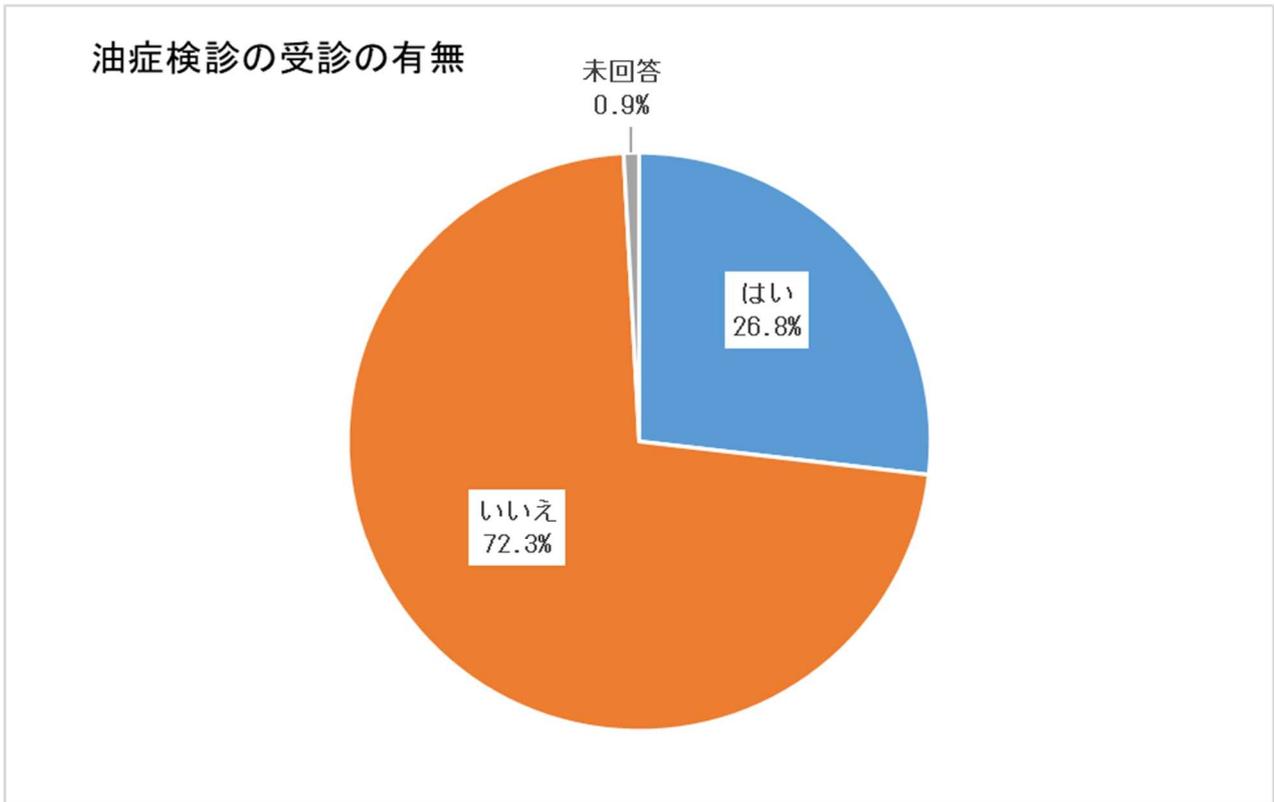
- ・受療券の保有状況についてみると、受療券を持っていると回答した方は858人（66.9%）【894人（68.6%）】で、男性400人（65.6%）【416人（67.3%）】、女性458人（68.2%）【478人（69.7%）】であった。



- ・受療券を持っていると回答した方は858人のうち512人（59.7%）【540人（60.4%）】が、この1年間、受療券を使用せずに受診した経験があると回答した。
- ・受療券を使用せずに受診した経験があると回答した人を対象に、受療券を使用せずに受診した理由を質問したところ、340人（66.4%）【362人（67.0%）】の方が「受療券を利用できない医療機関のため」と回答した。
- ・受療券を所持していないと回答した411人（32.1%）【397人（30.4%）】を対象に、受療券を持たない理由を質問したところ、「他の人に油症患者であると知られてしまうと思うから」と回答した方が163人（39.7%）【154人（38.8%）】と最も多かった。
- ・受療券の使用を希望する医療機関があるか質問したところ、82人（6.4%）【85人（6.5%）】の方が「はい」と回答した。

(8) 油症検診について

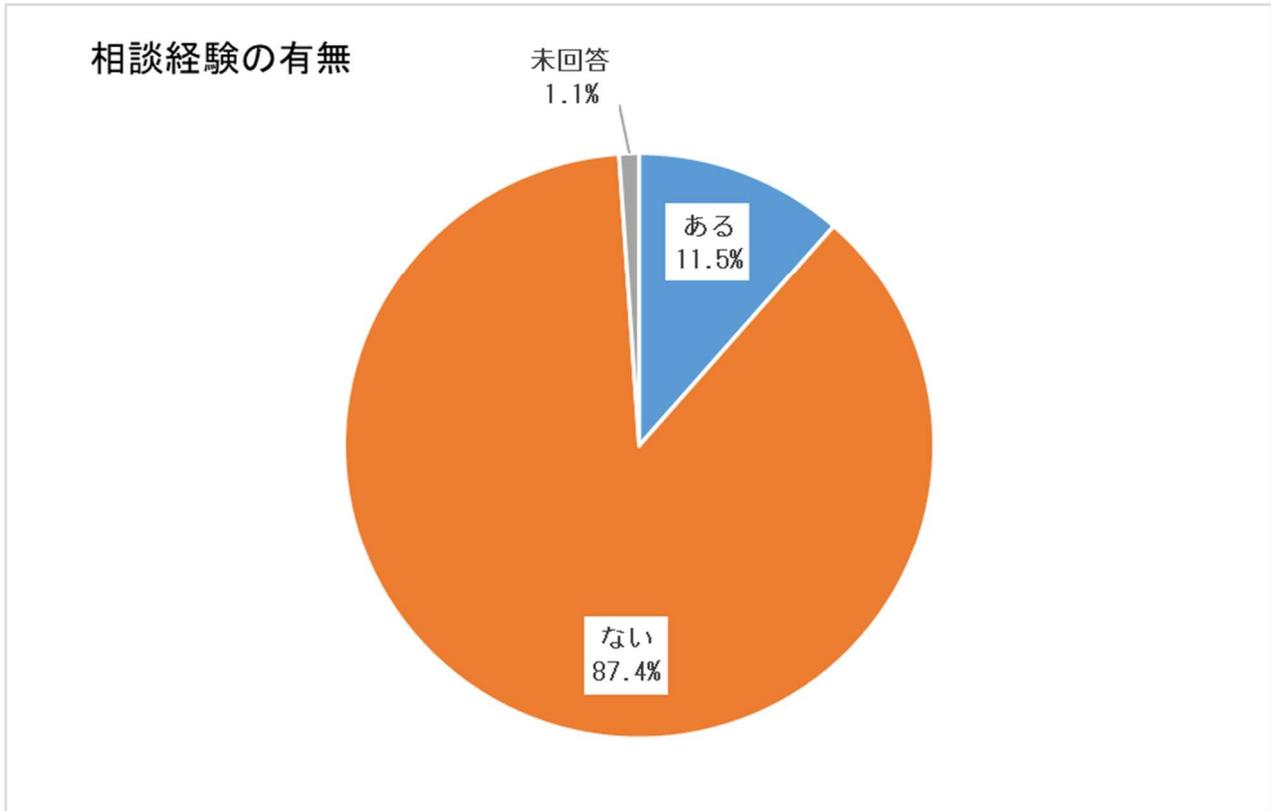
- ・油症検診の昨年度の受診状況についてみると、受診したと回答した方は、344人（26.8%）【44人（3.4%）】であった。



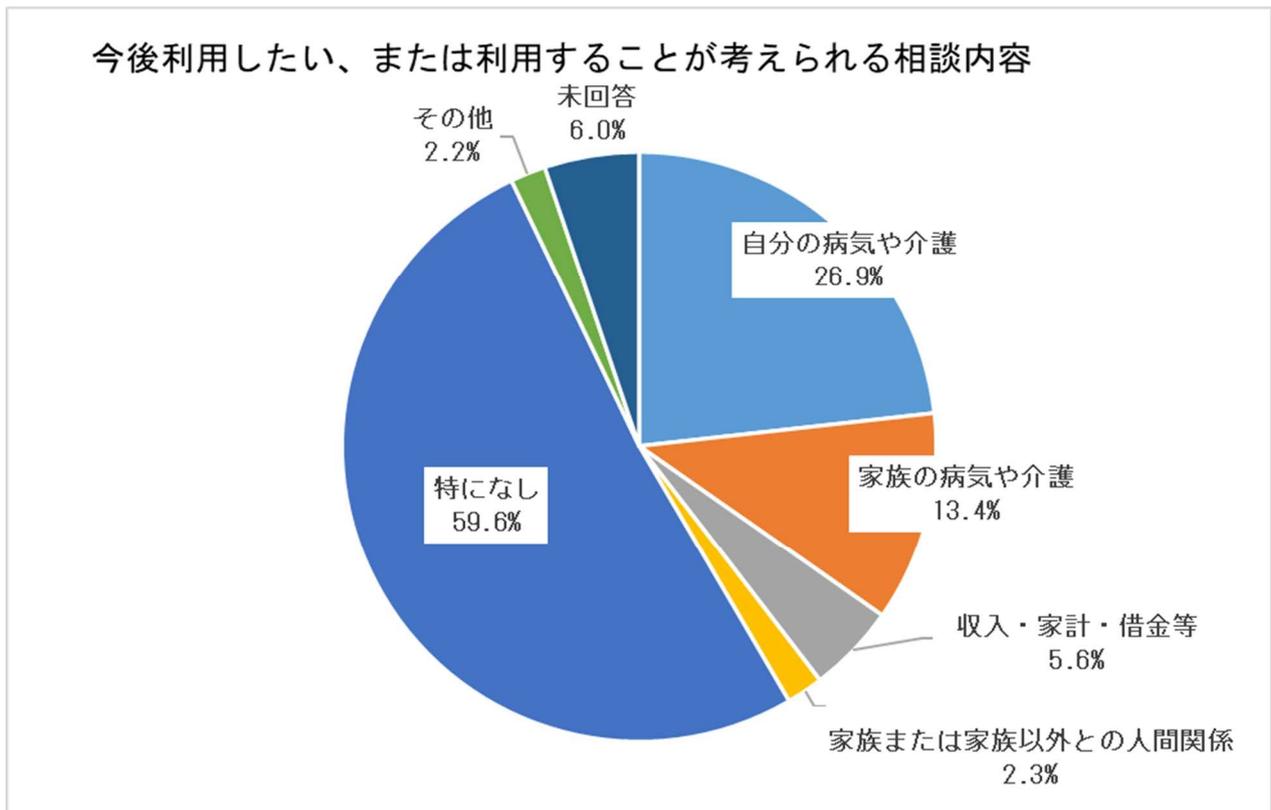
- ・油症検診を受診していないと回答した 927 人 (72.2%) 【1243 人 (95.3%)】を対象に、受診しなかった主な理由を質問したところ、「仕事などで都合がつかなかったから」と回答した方が 157 人 (16.9%) 【160 人 (12.9%)】と最も多かった。

(9) 相談体制について

- ・油症相談員や都道府県の相談窓口への相談状況についてみると、相談したことがあると回答した方は、148人(11.5%)【150人(11.5%)】であった。



- ・相談したことがないと回答した1,121人(87.4%)【1,135人(87.0%)】を対象に、今後利用したい、または利用することが考えられる相談内容を質問したところ、「特になし」と回答した方が668人(59.6%)【670人(59.0%)】と最も多く、次いで「自分の病気や介護」と回答した方が302人(26.9%)【320人(28.2%)】、「家族の病気や介護」が150人(13.4%)【150人(13.2%)】等の順であった。

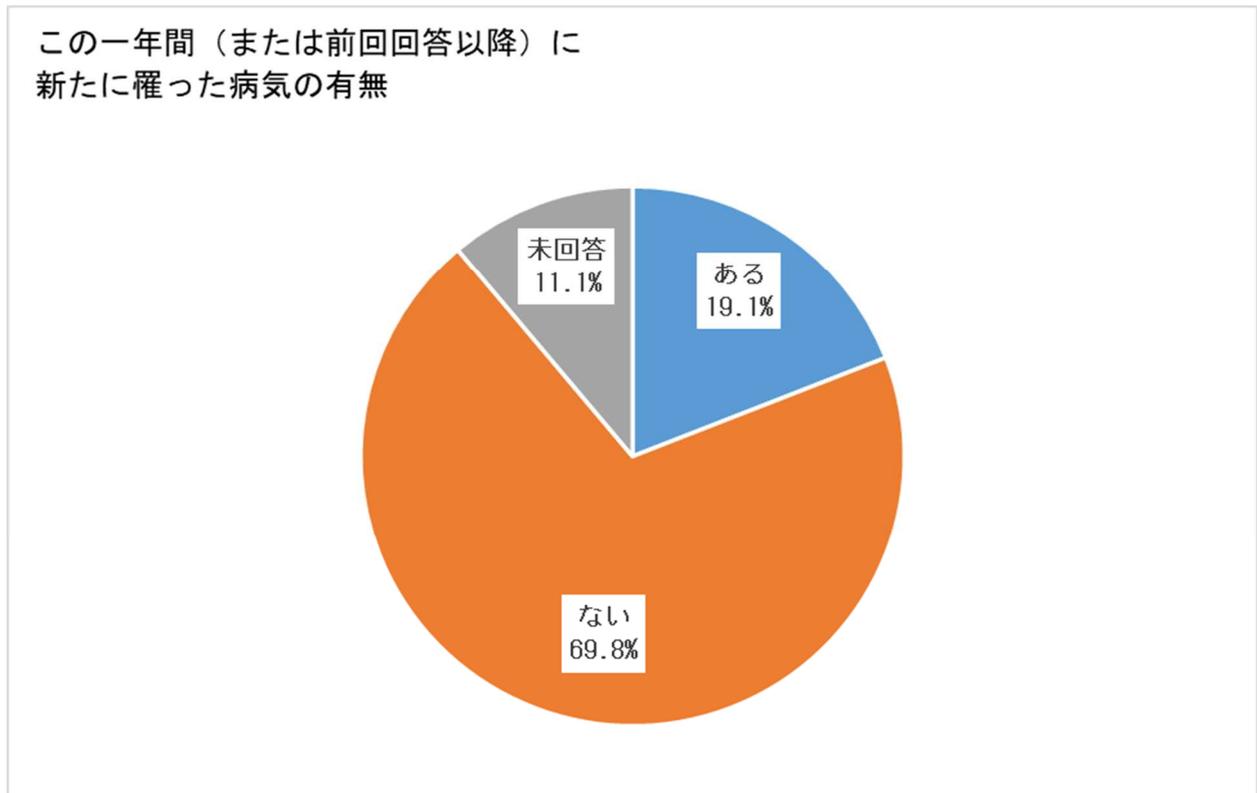


(10) 本調査の回答状況について

- ・本調査に回答するのは今回が初めてかどうかをみると、11人（0.9%）【15人（1.2%）】の方が「はい」と回答した。

(11) 本調査が初めてではない方の罹患と治療状況について

- ・本調査に回答するのは今回が初めてではないと回答した1,259人（98.2%）【1,271人（97.5%）】の方に、この一年間（または前回回答以降）に新たに罹った病気の有無を質問したところ、241人（19.1%）【259人（20.4%）】の方が「はい」と回答した。



- ・この一年間（または前回回答以降）に新たに罹った病気があると回答した人に、具体的な病名を記述式で質問したところ、「骨折」が21人（8.8%）【13人（5.0%）】と最も多く、次いで「コロナ」が18人（7.5%）【4人（1.5%）】、「高血圧症」が10人（4.2%）【14人（5.4%）】等の順であった。
- ・この一年間（または前回回答以降）に新たに罹った病気があり具体的な病名を記述式で回答した232人【259人】に、現在の治療状況を確認したところ、174人（75.0%）【232人（89.6%）】の方が「医療機関で治療中」と回答した。

(12) 本調査が初めての方の罹患と治療状況について

- ・本調査に回答するのは今回が初めてと回答した11人（0.9%）を対象に、これまで罹ったことがある病気等の状況を調査したところ、
- ・悪性腫瘍（がん）について、これまで罹ったことがあるか質問したところ、2人（18.2%）が「はい」と回答し、その中で具体的な病名を質問したところ、「子宮がん」、「大腸がん」と回答した。
- ・悪性腫瘍（がん）の具体的な病名を回答した2人に現在の治療状況を質問したところ、共に「治療が完了し、通院もしていない」と回答した。
- ・悪性腫瘍（がん）の具体的な病名を記述式で回答した2人に現在までに医療機関で受けたすべての治療を質問したところ、「外科手術（胸腔鏡・腹腔鏡手術を含む）」、「薬物療法（抗がん剤・ホルモン剤など）」と回答した。
- ・脳・精神・神経の病気について、これまで罹ったことがある病気をみると、「躁うつ病」「かっとなりやすい・短気」「その他」と回答した方がいずれも2件（18.2%）と最も多く、その中で「躁うつ病」は「医療機関での治療をへて治癒」「治療していない」が共に1件（9.1%）、「かっとなりやすい・短気」は「治療していない」2件（18.2%）、「その他」は「医療機関で治療中」「治療していない」が共に1件（9.1%）であった。
- ・自律神経系の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「不安神経症」「自律神経失調症」と回答した方が2件（18.2%）と最も多く、その中で「不安神経症」は「医療機関で治療中」「医療機関での治療をへて治癒」が共に1件（9.1%）、「自律神経失調症」は「医療機関での治療をへて治癒」「治療していない」が共に1件（9.1%）であった。
- ・眼の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「乱視」と回答した方が3件（27.3%）と最も多く、すべて「治療していない」であった。
- ・口の中の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「口内炎になりやすい」と回答した方が4件（36.4%）と最も多く、すべて「治療していない」であった。
- ・耳・鼻の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「鼻炎を起こしやすい」と回答した方が3件（27.3%）と最も多く、すべて「治療していない」であった。
- ・甲状腺の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、該当なしであった。
- ・のど・気管支・肺の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「風邪を引きやすい」と回答した方が2件（18.2%）と最も多く、「医療機関での治療をへて治癒」「治療していない」が共に1件（9.1%）であった。
- ・心臓の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「動悸（異状にドキドキする）」と回答した方が2件（18.2%）と最も多く、すべて「医療機関での治療をへて治癒」であった。
- ・高血圧や血管の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「高血圧」と回答した方が4件（36.4%）と最も多く、すべて「医療機関で治療中」であった。
- ・肝臓・胆のう・脾臓の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「胆石症」と回答した方が2件（18.2%）あり、「医療機関での治療をへて治癒」「治療していない」が共に1件（9.1%）であった。
- ・すい臓の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「糖尿病」と回答した方が2件（18.2%）あり、すべて「医療機関で治療中」であった。
- ・腎臓・膀胱の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「膀胱炎」と回答した方が4件（36.4%）と最も多く、すべて「医療機関での治療をへて治癒」であった。
- ・食道・胃・腸・肛門の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「下痢」「便秘」と回答した方がいずれも4件（36.4%）と最も多く、その中で「下痢」は「医療機関での治療をへて治癒」

3件 (27.3%)、「治療していない」1件 (9.1%)、「便秘」は「医療機関で治療中」2件 (18.2%)、「医療機関での治療をへて治癒」2件 (18.2%)であった。

- ・血液・リンパの病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「貧血」と回答した方が2件 (18.2%)と最も多く、すべて「医療機関で治療中」であった。
- ・男性に対し、前立腺・男性機能に関する病気・症状について、これまでに罹ったことがある病気をみると、「前立腺肥大」と回答した方が2件 (33.3%)と最も多く、その中で「医療機関で治療中」1件 (16.7%)、「医療機関での治療をへて治癒」1件 (16.7%)であった。
- ・女性に対し、子宮・卵巣・婦人科系の病気・症状について、これまでに罹ったことがある病気をみると、「月経困難症(生理痛)」「不正出血」「過多月経(月経が多い)」と回答した方がいずれも2件 (40.0%)と最も多く、その中で「月経困難症(生理痛)」「過多月経(月経が多い)」は「医療機関での治療をへて治癒」1件 (20.0%)、「治療していない」1件 (20.0%)、「不正出血」は「医療機関での治療をへて治癒」2件 (40.0%)であった。
- ・初経の年齢を回答した5人の平均年齢は、13.6歳であった。
- ・閉経の年齢を回答した4人の平均年齢は、54.5歳であった。
- ・不妊症についてみると、「あり」と方は1件 (20.0%)であった。
- ・妊娠回数についてみると、「0回」「2回」と回答した方がいずれも2件 (40.0%)と最も多く、次いで「5回」1件 (20.0%)であった。
- ・記載のあった妊娠中の状況を集計してみると、「妊娠中毒症」5件 (50.0%)、「とくになし」4件 (40.0%)、「切迫流産」1件 (10.0%)であった。
- ・記載のあった出産等の状況を集計してみると、「正常分娩」6件 (66.7%)、「早産」2件 (22.2%)、「人工流産」1件 (11.1%)であった。
- ・記載のあった出産時の出血量を集計してみると、「中」5件 (55.6%)、「小」2件 (22.2%)であった。
- ・記載のあった新生児の状況を集計してみると、「とくになし」5件 (50.0%)、「その他」2件 (20.0%)、「先天異常」「奇形」が共に1件 (10.0%)であった。
- ・骨・関節の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「関節痛」と回答した方が5件 (45.5%)と最も多く、その中で「医療機関で治療中」4件 (36.4%)、「治療していない」1件 (9.1%)であった。
- ・皮膚・爪の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「爪の変形」「皮膚の掻痒(かゆみ)」と回答した方がいずれも3件 (27.3%)と最も多く、その中で「爪の変形」は「治療していない」3件 (27.3%)、「皮膚の掻痒(かゆみ)」は「医療機関で治療中」2件 (18.2%)、「治療していない」1件 (9.1%)であった。
- ・アレルギー疾患について、これまで罹ったことがある病気をみると、「花粉症」と回答した方が4件 (36.4%)と最も多く、その中で「医療機関で治療中」1件 (9.1%)、「治療していない」3件 (27.3%)であった。
- ・膠原病について、これまで罹ったことがある病気をみると、該当なしであった。
- ・その他の病気・症状について、これまで罹ったことがある病気をみると、「全身倦怠感(体がだるい)」「手足のしびれ」「体がつる」と回答した方がいずれも2件 (18.2%)と最も多く、いずれも「医療機関で治療中」1件 (9.1%)、「治療していない」1件 (9.1%)であった。

(13) 自由記載欄について

本調査では、「これまでの症状や病気について、書ききれなかったことや、特に研究してもらいたいこと、要望など」について自由記入欄を設けたところ、238人【257人】から回答があった。

※主な記載内容

- ・自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について 165件【139件】
- ・職業（仕事）に関する苦勞について 4件【2件】
- ・経済的な苦勞について 10件【9件】
- ・治療法の研究開発への要望、期待 34件【24件】
- ・病院、医師、検診に関する要望 14件【25件】
- ・行政機関に対する要望 42件【30件】
- ・カネミ倉庫に対する要望 1件【0件】
- ・その他 97件【72件】